

🎬 コムズフェスティバル映画祭 シネマ&トーク 報告

マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙

毎年開催されるコムズフェスティバルの締めくくりである映画祭。
今年は、前厚生労働事務次官 村木厚子さんをお招きし、トークと映画を通して、テーマである「女性の活躍」にスポットを当てました。



©2011 Pathé Productions Limited , Channel Four
Television Corporation and The British Film Institute.

◆STORY◆

英国初の女性首相となり、国内のみならず世界に影響を与え続けたマーガレット・サッチャーは、その強い信念と強力なリーダーシップから「鉄の女」と呼ばれた。

そんな彼女を陰ながら支え続けた最愛の夫・デニス。彼が他界してしまった今、彼女は静かに振り返る。貧しい雑貨商の娘という自我を、現役時代の栄光と挫折を、そしてキャリアの為に犠牲にしたかもしれない愛を――。

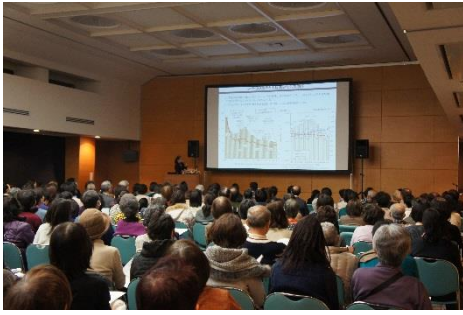
これは単なる政治家の偉人伝ではない。妻として、母として、国のリーダーとして力の限り闘い続けたひとりの女性の感動の物語。 (2011年/イギリス/105分)

演題「働くこと 成長すること」

ゲスト 前厚生労働事務次官 村木 厚子さん

1955年高知県生まれ。1978年高知大学文理学部経済学科卒業。同年労働省(現厚生労働省)入省。女性政策、障害者政策などに携わり、2008年雇用均等・児童家庭局長、2010年内閣府政策統括官(共生社会政策担当)、2012年社会・援護局長などを歴任し、2013年7月厚生労働事務次官に就任。2015年10月厚生労働省退職。





村木さんのお話から一部をご紹介します。
前半は、グラフを使って「女性が働くということ」
を施策の面から説明してくださいました。

グラフを使って日本の人口減少と、社会保障給付費についての説明がありました。

日本は親がたくさんいるのに、子どもを産みにくい、育てにくいために、赤ちゃんが生まれなかった。
これからは親も減る時代。どんどん高齢者が増えて現役の支え手世代が減っていきます。

◆どうやったら危機的状況乗り越えられるか。

潜在パワーを活かすこと。→女性・障がい者・高齢者
特に人数の多い女性のパワーは非常に重要となります。

◆どうやって働き手の減少を食い止めるか。

世界各国と比べてみると…日本は「女性があんまり働けてなくて、子どもが少ない国」であり、
「働いても子どもが産める、子どもを産んでも働ける」国になる必要があります。

日本の女性は、健康で教育水準も高いので、準備は整っています。

あとは仕事や政治の場で能力を発揮するだけなのですが…

◆日本の女性はなぜ働けていないのか。

色々な理由がありますが、やはり「子どもを産んだ時」に辞めています。

育児休業は大分拡がってきているので、育休が終わった後をサポートできる制度や職場環境が
今重要視されています。

◆解決策

夫が家事を手伝ってくれること→日本の男性は世界各国に比べて家事を手伝う時間が
短いことがデータで分かっています。そして、家事を手伝ってくれるほど女性が辞めずに
働けられる、そして二人目の子どもを持つ。というデータも出ています。

そこで、会社や上司が女性の働き方だけではなく、男性の働き方も一緒に考えなければならない。
ということが見えてきます。

◆社会保障と税の一体改革

以前は、税を「年金・医療・介護」高齢者三経費に使っていましたが、現在はプラスして
若い世代へ使うようになりました。将来の社会の担い手である若い世代を支えることが
高齢者の老後の暮らしにもつながるのです。

一番分かりやすいのが保育所を増やすこと。保育所が多い県ほど、女性が働いている
というデータが出ています。



女性の活躍に関する法律で
特に重要なもの2つを紹介されました。

◆次世代育成支援対策推進法

社員の子育てを応援するための計画を会社が作るという法律。

※くるみんマーク

「子育てサポート企業」として、厚生労働大臣の認定を受けた証です。

平成 27 年 12 月末時点で、2,398 社が認定を受けています。さらに、平成 27 年 4 月 1 日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取組を行っている企業を評価しつつ、継続的な取組を促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。平成 27 年 12 月末時点で、53 社が認定を受けています。(厚生労働省HPより)



◆女性活躍推進法

女性が、職業生活において、その希望に応じて十分に能力を発揮し、活躍できる環境を整備するため制定された法律で、具体的な内容は、企業が自分の会社で働いている女性の採用や退職状況、残業や管理職に就いている数などをはっきりさせ、分析する。そして、問題がある場合改善策を労働局に届けでるといったもの。平成 28 年 4 月 1 日から、労働者 301 人以上の大企業は適用されます。



後半は、ご自身の経験から働き方、生き方など
さまざまなアドバイスをいただきました。

◆村木さんが考える女性が活躍してうまくいっている会社とは…

- ①トップがしっかりしていること
- ②「働きやすさ」「働きがい」という二つの座標軸をもっていること
- ③女性や育児のために制度を作るだけでなく、男性、介護、勉強したい人などにも広げていること

◆村木さんが後輩に伝える仕事上でのアドバイスは…

- ①新しい仕事をできるだけ引き受ける(地域や PTA などでも当てはまります)
- ②昇進のオファーがあれば受ける
- ③ネットワークを作る(先輩、後輩のネットワークはすごく大事)

◆村木さんが後輩に伝える家庭と仕事を両立する上でのアドバイスは…

- ①お金で買える時間があれば買う(食洗機を買う、ルンバを買うなど)
- ②悩むとパフォーマンスが落ちるので悩むな(悩むなら生産的に)
- ③子育てがあるから、介護があるからといって本当にやりたいことをあきらめないこと

◆アンケートより◆

女性の就労とそのための制度（法律）の必要性について学ぶことができた。映画もトークと合っていた。（30代男性）



今後の仕事、マネジメントに大いに参考になった。（50代男性）



社会をよい方へ変えていくには、女性の力が必要だというテーマにそったお話と映画が拝聴できてよかった。日本が必要とし、期待している女性の力。私も最大限役立ちたいと思った。（30代女性）

働くこと、会社・社会に必要なことが分かりとてもためになった。今何をしなければならないのか考えさせられた。（50代男性）



これからの社会のこと、生き方を考えていききっかけになった。元気をもらえた。（50代女性）



お話を聞き、定年退職後も何らかの仕事、活動の場を持ちたいと思った。（60代女性）



村木さんの女性としての生き方が素晴らしいと思う、内容もデータに基づいていて、女性が働くことの重要性をよく理解できた。（60代女性）



大変ためになる話であり、シネマとのコンビネーションもよく考えられていると感じた。（70代男性）



◆村木さんから最後に…

「なぜ女性を使わなければいけないのですか？」と、真顔で聞かれることがまだあります。このような返事をしています。「あなたが全日本の監督になったら、西日本からだけ選手を集めますか？それは監督失格でしょ？」
これからの日本は人口減少。男性も、女性も、障がいのある人も、高齢者も…色々な人がそれぞれに力を発揮してなんとかこの国はやっていける。

そう力強く話を締めくられました。参加者のみなさんも村木さんのお話を聞いて、日本の現状を理解するとともに、映画も通して、女性の活躍について考える時間となったようです。たくさんのご参加本当にありがとうございました。